

<p>区 委員長</p>	<p>[開会] 短い時間で多くの議題を議論する必要がある。多くの委員が発言できるようにご配慮いただきたい。 小委員会では、2回に渡って政策分野別に、2040年の望ましい姿と望ましい姿を達成するための取組の方向性を議論する。基本構想策定支援シートを事前にご覧になっている前提で進める。基本構想策定支援シートや区民参画の結果を基に意見いただきたい。 次第2「小委員会の進め方」について事務局より説明いただきたい。</p>
<p>区</p>	<p>資料1「小委員会の進め方」について説明する。 本日から、2回開催する小委員会を通じて政策について審議いただく。3ページは第2回審議会において提示した、政策体系の事務局案である。第2回審議会での意見と小委員会での意見を踏まえ、第3回審議会にて修正案を示す。 18ページの参考3は、第2回審議会で、「基本目標の概念図があると分かりやすい」との意見があったため、第2回審議会時点の基本目標の概念図について事務局案を記載している。 都市インフラや防災・防犯の「安全安心で快適に暮らせるまち」が根底にあり、そのうえに多様な価値観が認められる、また産業や文化によるにぎわいなどの「まちの姿」があり、そのうえに一人ひとりが育つことのできる環境があるといった構図をイメージしている。なお、この概念図は今後の議論を踏まえて検討していく。 本日「防災」や「環境」など6つの政策分野について審議いただく。「文化・芸術」や「産業」は次回4月20日に検討を行う予定である。 5ページは小委員会の検討事項を記載している。小委員会では、区民参画結果や基本構想策定支援シートを参考に、各政策における「2040年の望ましい姿」「望ましい姿を達成するための方向性」等について検討いただく。 6ページでは小委員会から第3回審議会にかけての流れを記載している。本日で4月20日の2回にわたり、小委員会において審議いただく。その後、意見の取りまとめを行い、委員長と内容を調整したうえで5月25日の第3回審議会において、小委員会での議論の結果を報告するとともに、基本構想の素案を示す。なお、本日で4月20日の小委員会終了後、1週間程度追加意見の期間を設定する。追加意見がある場合は、12ページの資料3「追加意見シート」を事務局まで提出いただきたい。</p>

	<p>7ページには、本日の会議の流れを記載している。</p> <p>各政策に関して検討する際に、 に記載のとおり、事務局から対象となる基本構想策定支援シートの概略を説明する。その後、 政策ごとの2040年の望ましい姿・政策の方向性について、意見をいただく。その後 意見をもとに、8ページに記載のワークシートの作成を行う。なお、2040年の望ましい姿等についてワークシートの内容で問題がないか、全体で確認いただく。その後、 基本目標（都市像）に盛り込むべき特に重要な事項について意見をいただき、基本目標の「安全安心で快適にらせるまち」の基本目標に盛り込むべきキーワードについて、意見をいただく。</p> <p>8ページは本日使用するワークシートである。</p> <p>2040年の望ましい姿については「2040年にどんな状態になっているか」についてのキーワードをいただく。意見のイメージは「～になっている」や「～が実現している」。また、望ましい姿を達成するために「どのような取組を行っていくか」についてキーワードをいただく。「～を行う」「～に取り組む」「～を実現している」などのイメージ</p> <p>9ページは基本目標に関するワークシートである。</p> <p>前段の政策に関するワークシートの中で、基本目標に盛り込むべき重要なキーワードについて議論いただく。なお、皆様にいただいたご意見の基本構想への反映イメージは、配布している現行の基本構想の冊子を確認いただきたい。例えば現行の基本構想の10ページには、「防災・防犯のまちづくり」「利便性の高い都市基盤の整備」が政策名称、その下に記載のある文章が政策の方向性である。本日いただいた意見はこのようなイメージで基本構想に反映される。本日は率直な考えやキーワード等、ご発言いただきたい。</p> <p>なお、先般の第2回審議会および小委員会での議論を踏まえ、第3回審議会基本目標（都市像）および政策の修正案を提示する。</p>
委員長	<p>参考資料1に前回の審議会までの議論が記載されている。キーワードは、同資料の基本目標 に記載されている「誰もが大切にされる」「コミュニティを持続させる主体的な学びの機会」「町会の活性化」程度の粒度を期待している。具体的すぎると基本構想に記載することが難しいことはご容赦いただきたい。</p> <p>各分野について、2040年の望ましい姿と望ましい姿を達成するための取組の方向性について合わせてご意見をいただき、事務局にて振り分けつつ進める方針としたい。</p> <p>時間に限りがあるため、事務局の説明の後、委員長から各委員の専</p>

	<p>門性を考慮して2名程度指名し、意見をいただく。それを基に皆様で議論していきたい。事務局は、極力端的に説明いただきたい。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(1)「健康」について、事務局から説明いただきたい。</p>
事務局	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『健康』」について説明する。</p> <p>基本構想策定支援シートのつくりは、表に現行計画における成果と実績、社会状況の変化と国・東京都の政策動向についてまとめている。裏面の上部では、区民ニーズ等の区の現状について整理しており、裏面の左下では、成果や社会経済の状況、区の現状を踏まえた現状の課題を整理している。裏面の右下に、本日皆さまにご審議いただきたい内容を記載している。記載内容は資料8ページのワークシートと同じである。</p> <p>それでは健康のシートに関してポイントを絞って説明する。</p> <p>本シートは現行施策である「青壮年期の健康増進」「健康危機管理体制の整備」「地域医療の充実」「健康を支える保険・医療体制の適正な運営」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「健康状態がよいと感じる区民の割合」や「医療の充実度」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、オンライン診療や訪問診療等の受診行動の変容や、外出制限によるテレワーク等の普及に伴い、運動不足や体力低下といった健康上の問題が生じた一方、自らの健康に関心を持つ層が増えている。</p> <p>また、高齢化の進展により、団塊ジュニア世代が後期高齢者となり、高齢者の割合が過去最大になる2040年問題が健在化した。国及び東京都の政策動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和6年の区政世論調査における「今後、力を入れてほしい事業」の設問において「感染症対策の充実」と選択した方は7.4%、「健康づくりなどの保健衛生施策の充実」を選択した方は6.9%との結果であった。</p> <p>また、令和6年度末時点の国民健康保険被保険者数は、42,256人で年々減少傾向にあり、後期高齢者医療制度被保険者数は26,566人で年々増加傾向にある。</p> <p>休日医療整備事業の受診者数は、コロナ禍の令和4年度は約12,000人でしたが、令和5年度以降は18,000人程度となっている。</p>

	<p>1～3を踏まえた課題は、今後の更なる高齢化や寿命の延伸に伴い、団塊ジュニア世代や働き盛り世代、健康無関心層へ健康意識醸成のアプローチが重要となるほか、実際の健康活動へ行動変容してもらうための取組が重要である等、4点記載している。</p> <p>基本構想策定支援シート「健康」の説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>個人が努力して健康になることは難しい。支援シートにて「健康意識の醸成が重要」との記載があるが、健康になるための努力をすることよりも、近年はナッジの考え方が進み、住んでいると自然に健康になる仕組みを整える方向での検討が盛んである。例えば、食堂にて「本日のおすすめメニュー」を選ぶだけで知らぬうちに健康になっているというような仕組みである。区民の協力が求められるが、食生活は生活基盤を整えるものであるため、「意図せずに健康になれる環境づくり」が重要と考える。</p> <p>続いて、「おせっかい」、「ケアをし合う」、「関心を向けあう」というキーワードが考えられる。区内を歩いていた際、隣の男性が、体調の悪そうな方に話しかけている様子を目にした。他人に関心を向けることは、自分のケアにもつながる。高齢者は特に転倒・骨折が最も重要な健康上の問題の一つとなっている。お互いに依存し合い、関心を向け合う市民になっていくことが、健康につながるのではないかと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>望ましい姿を目指すには、骨格筋、脳みそ、臓器の3点が健康であることが条件と考える。上記3点が健康でなければ、健康寿命は伸びず、医療費も抑えられない。骨粗しょう症防止においては、子ども時代にいかに栄養をとり、筋骨格を育てられるかが重要である。</p> <p>近年は外来診察において、特段何かをし過ぎたわけではないにもかかわらず、オーバーワークの症状を訴える子どもが多く、それだけ日常的に動いていないことが推察される。動く環境がないことや、リスクヘッジのために禁止されていることが要因として考えられ、そのような環境を改善することが一案か。肥満等の予防にもつながるだろう。あるべき姿としては、認知症を含めた、身体全般の病気に対し、予防となる対策を講じている状態と考える。</p>
<p>委員</p>	<p>「おせっかい」は重要だろう。荒川区には、すでに区民同士のつながりのベースがあると考えられる。人が自然と集まる場所で、コミュニティナースのような関わりを持つことで、食事・睡眠ベースの正しい知識が得られ、生活の土台が整うだろう。特に、若年層はコンビニ食が身近であり、ジャンクフードのおいしさを強調するようなメディアの</p>

委員	<p>広告等に触れる機会も多い環境に置かれている。正しい知識が自然と得られるような環境づくりを進めることが重要だろう。</p> <p>日本の医療制度は、病気にかかった場合には、治療に必要な支援を受けられるが、健康な状態で活用できるような支援はあまりない。多大な資金をかけずとも、健康に関する知識の得られるような場所を行政が用意することで、荒川区に住むことで元気なまま生涯を終えられるようなまちづくりができると望ましい。</p> <p>なにかし堂という居場所づくり活動の一環で、暮らしの保健室という取組を行っている。暮らしの保健室では、コミュニティナースの概念を実践している。長い間、医療につながっていなかった人が、暮らしの保健室で、看護師や理学療法士から「利用者」としてではなく、「近所の人」程度の距離感で声をかけられたことをきっかけに、3、4年越しに病院に行った事例がある。自分は大丈夫だろうと考えている人の意識を変えるためにも、コミュニティナースのような取組は効果的と考える。「地域に開かれた医療」、「社会的処方」がキーワードになるのではないかと。</p> <p>身体面だけでなく、精神面や社会的なつながりという面も重要であることを、住民に伝えられるような表現とすることが望ましい。</p>
委員	<p>「おのずと健康になる」というのは良いキーワードだろう。</p> <p>また、日常的に区内を歩く中で、まちで毎日掃除している方と挨拶を交わす関係もつくられ始めている。「コミュニティ」は重要と考える。</p> <p>「運動」についても重要と考える。骨格・四肢を鍛えることや神経系の発達の促進を目的とした、文部科学省の「36の基本動作」を踏まえ、現在保育園にて、子どもに運動指導を行っている。荒川区ではラジ体操も活発に行われている。</p> <p>加えて、「食」も選択肢が多様化しているように感じる。</p> <p>今ある要素から、継続すべきものを適切に整理し、2040年にも残していくことが望ましい。</p>
委員長	<p>ワークシートにてここまでの議論内容をまとめた。これを踏まえて意見を伺いたい。</p>
委員	<p>「住んでいるとおのずと健康になる」は、すばらしいキーワードと考える。荒川区で暮らす住民が、施策に従っているうちに、気が付いたら健康になっていた、という状態が理想的である。</p> <p>個人差がある中で、どんな人も取り残さないようにしてほしい。「誰もが健康になれるまち」という言葉も重要と考える。</p>

委員	<p>行政には、これらのキーワードの実現に向けた施策を策定いただきたい。そして、私をはじめとした多くの人との接点がある立場の間人は、「おせっかい」で挨拶や声掛けをし、施策を広げられると望ましい。</p> <p>「おせっかい」は下町らしさもある。特定の人だけでなく、皆が健康になるには、「つながり」が重要なキーワードになるだろう。コロナ禍から、オンラインコミュニケーションが発達し、新たにできたつながりも多い。行政においても、多様な媒体を駆使し、より多くの方々がつながりを持ち、健康になれるような取組を進めるための計画を立てることが望ましい。</p>
委員長	<p>「コミュニティ」、「つながり」、「誰でも」というキーワードが出た。これらを参考にとりまとめをさせていただく。追加の意見は、追加意見シートに記載し、ご提出いただきたい。</p>
委員長	<p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(2)「高齢・介護」について、事務局から説明いただきたい。</p>
事務局	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『高齢・介護』」について説明する。</p> <p>本シートは現行施策である「介護予防の推進」「高齢者の社会参加の推進」「介護サービス基盤の充実」「在宅医療・介護の連携推進」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「認知症サポーター養成者数」や「シルバー人材センターの就業率」等、現行の基本計画期間における成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化においては、高齢化の進展により、要介護・医療ニーズが増大している。高齢者の要介護度の上昇や多疾患併存が進むとともに、在宅医療の需要・期待が高まりまった一方、家族介護負担の問題や医療的ケアに関する不安も大きく、社会的支援や専門職による協働の重要性が増している。国や都の主な動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、荒川区の高齢者は令和7年4月1日現在48,648人で、高齢化率は21.9%、また75歳以上の後期高齢者の増加に伴い、認知症の有病者数も増加している状況である。令和4年度の在宅介護実態調査では、現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症への対応」が29.1%となっている。</p> <p>1～3を踏まえた課題は5つ記載している。超高齢化の進展に伴う介護予防への対策がより一層必要であり、健康寿命の延伸や社会参加</p>

	<p>といった本人への対応のほか、地域社会の理解や支える側の担い手、・体制といった取り巻く環境の構築が必要であると認識している。また、認知症の有病者数の増加が見込まれることから、認知症の早期発見や早期診断体制の整備、認知症への理解醸成等を課題として記載している。</p> <p>基本構想策定支援シート「高齢・介護」の説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい</p> <p>第一に、認知症予防が重要と考える。要介護や介護認定において、鍵になるのが認知症である。荒川区も以前より力を入れており、認知症カフェや専門の物忘れ相談、令和7年にはチームオレンジとして、認知症当事者や家族を支える地域づくり等の事業を行っている。高齢化率の高まりに伴い、認知症患者の増加が見込まれ、「当事者や家族が安心して住める荒川区」が目指すべき姿になると考える。「認知症当事者およびその家族を孤立させず、地域一体で認知症に向き合えるまちづくり」という方向性の取組を実施することで、介護の需要も抑えられるだろう。</p> <p>第二に、社会参加のきっかけを生む仕組みづくりを積極的に行い、その取り組みを声掛けにより周知していくことが重要と考える。「積極的に社会参画できる荒川区」になることが望ましい。高齢者の孤立・孤独死の増加が見込まれる中、鍵となるのはコミュニティだろう。また、良い取組があるものの、知らないために参加していないという人も多い。高齢・介護分野においても声掛けは重要だろう。</p> <p>第三に、DX、環境改善含め、介護・福祉人材の育成をいかに進められるかが重要だと考える。介護・福祉人材の働きづらさについては、待遇面の課題等、国単位で見直すべき点も大いにあるが、区としても「介護・福祉人材が生き生きと働けるまち」を目指すことが望ましい。介護福祉人材の充実は、認知症や孤立の予防にもつながるだろう。</p>
<p>事務局</p>	<p>欠席の委員からは、事前にいただいた意見をワークシートに記載している。2040年の望ましい姿としては、「長寿社会の進展をポジティブに受け入れられる社会」、「住み慣れた自宅・地域で人とつながりながら最後まで暮らせる社会」、「認知症になってもその人らしく、感情豊かに笑顔でいられる社会」、「高齢者を支える人を社会で支える、真心だけに頼らない、仕組みで支える社会」という4点をお伝えいただいた。これらを達成するための取組の方向性や、基本目標に盛り込むべきキーワードについてもシートに記載しているため、今後の議論の参考としていただきたい。</p>

委員長	2名の委員の意見をもとに、「高齢・介護」分野の政策に意見をいただきたい。
委員	人材不足に関して、西尾久にある、介護事業者と若者が共同運営するコミュニティカフェの事例を挙げる。介護に興味がなかった若者が、ボランティア活動を通じて介護事業者と触れ、いつの間にか介護興味を持つようになり、資格を取得するケースも増えている。「若いうちから介護に関わる」、「コミュニティケアラーの育成」等がキーワードになるだろう。
委員	「最後まで暮らせる社会」という言葉が重要と考える。最後は看取られながら生涯を終えたいという方が多い。その実現に向け、在宅サービスや高齢者向けの施設の整備等の取組を進めることも一案か。
委員	神奈川県藤沢市にて、民間事業者が「ノビシロハウス」という多世代交流型アパートメントを運営している。他世代と住むことによる互恵性が重要と考える。してもらっただけ・してあげるだけではなく、互いに社会貢献をしあうことが、一つのポイントになるだろう。
委員	小学校教員を務めていた際、小さい子どもがお年寄りと交流するという授業があり、双方にとって温かい交流が生まれる様子を目にしたことがある。高齢者は、知恵を伝えるだけでなく、お年寄りならではの時間的なゆとりを生かし、子どもたちの様子見守り続けており、時間的なゆとりの少ない親世代では難しい部分をカバーしていた。保育・教育の中でも交流できる取組が増えることが望ましい。
委員	多世代交流に関して、ドイツでは、国家プロジェクトとして「多世代の家」という多世代交流の場づくりが進められている。 WHOでは高齢者に優しい地域づくりに取り組む自治体等で「エイジフレンドリーシティ」というネットワークを作っている。世界的な潮流となっているエイジフレンドリーに荒川区も連帯できると望ましい。
委員長	「高齢・介護」分野については、ここまでの議論でいただいた意見をもとに、整理することとしたい。
委員長	次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(3)「障害・生活支援」について、事務局から説明いただきたい。
事務局	資料2「基本構想策定支援シートの『障害・生活支援』」について説明する。 本シートは現行施策である「福祉の基盤整備」「障がい者の相談支援体制の充実、障害者の住まい・日常生活に対する支援」「障がい者の就労支援・生きがいの創生、低所得者の自立支援」について記載して

	<p>いる。</p> <p>1の主な成果と実績では、「民生委員相談支援件数」や「荒川区障害者福祉会館や荒川区精神障がい者地域生活支援センターの利用者数」等、現行の基本計画期間における成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向です。社会状況については、少子高齢化や核家族化、単身高齢者世帯の増加に加え、住民同士のつながりが希薄化するなど、地域社会の構造が大きく変化しており、老々介護やダブルケア、8050問題、引きこもり問題等、課題が複雑化・複合化しており、ひとつの行政分野による支援制度のみでは対応が難しい状況が発生しておりまた、高齢化の進行に伴い、民生委員の高齢化が深刻化している現状にある。パラスポーツの認知向上やパラリンピック大会・デフリンピック大会等の影響で、障害者スポーツの参加意欲が高まっている。国や都の主な動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和元年度以降、民生院の充足率が減少している。また、令和4年度に実施した「高齢者プラン策定のためのアンケート調査」の「家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください」との設問に対し、「社会福祉協議会・民生委員」と回答した人は5.5%であった。</p> <p>1～3を踏まえた課題は7つ記載している。民生委員の不足解消をはじめ、超高齢化社会における福祉ニーズへの的確な対応体制の構築、重度障がい者の受入れ体制や住まいの不足、担い手の確保、生活困窮者に対する自立支援、また、事業者に対しては複雑化する障害福祉サービスの法制度等の理解促進を図る必要があること等を課題として記載している。</p> <p>基本構想策定支援シート「障害・生活支援」の説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>2040年の望ましい姿として、「生きがいづくりと社会参加」に着目して話したい。生きがいや社会参加は就労や住まいが安定してはじめてできるものと考えられる。</p> <p>就労については、福祉就労と一般就労がある。前者は支援員がサポートするケースが多く、後者はじょぶ・あらかわが支援している。両者の相談を聞く、生活相談支援事業所の仕事は非常に難しく、経験を求められるものであるため、現在人員不足が課題となっている。</p> <p>障がい者の住まいとしては、入所施設やグループホームがあるが、全ての障がい者が入れるわけではなく、自宅でサポートを受けながら生活するケースも多い。その場合、日常生活をサポートしてくれるへ</p>

	<p>ルパーが必要であるが、人材が不足しており、ヘルパーの確保・育成に注力する必要があるだろう。</p> <p>障がい者への理解も求められる。実際に会うことで、障がい者も健常者同様、笑い、歌い、電車に乗って通勤していることを知ることが理解への第一歩となるだろう。小学生の段階から、カリキュラムに障がい者理解啓発を組み込むことで、その後の価値観にも影響があるものと思料する。行政だけに負担を押し付けず、我々障がい者団体も理解啓発に取り組みたい。</p> <p>本人の意思の尊重も重要である。重度な障害のある方でも意思はあるため、支援者がそれをくみ取る努力をすることが大切だろう。</p> <p>障害は治るものではなく、障がい者はサポートを受け、生活している。課題は多いが、孤立しないよう、親や支援者だけでなく、周辺の方とつながり、心のバリアフリーが実現されると望ましい。</p> <p>健常者は、健常者が暮らしやすい環境を長年にわたって整えており、健常者へのケアは行き届いている。一方、その環境は障がい者にとって暮らしやすいものとは言えず、障がい者へのケアはいきわたっていない。「障がい者をサポートする」という発想から、「障がい者が生活するのにふさわしい環境ができておらず、健常者へのケアに偏っているため、障がい者へのケアに重点を置く」という発想に転換する必要があるだろう。</p> <p>依存を脱却し、自立すべきであると考えがちであるが、依存を、「障害の有無に関わらずともに生きていくこと」と捉え直した上で、お互いに依存し合い、生きていくことが重要であるとする。我々は、気付かないうちにいろいろなものに依存していることを自覚し、障がい者の今の生活をあたりまえにしていける必要があるだろう。「依存の価値観を転換し、依存をしていこう」という言葉をキーワードとしたい。</p>
委員	<p>荒川第一中学校の卒業式にて、支援学級の生徒が立派に祝辞を述べている姿を見た。障がい児と健常児が一緒になって過ごしている学校もあり、そのような環境の児童は、障がい者への一定の理解がある。分けられた環境で過ごす、どのようなハンディキャップがあるかを理解できていないように感じる。区が主体となって、健常児と障がい児が同じ目線で共に理解を深められるような機会を作ってほしい。</p> <p>健常者の目線だけでなく、障がいのある方にも優しいバリアフリーなまちづくりを目指すことで、理解も深まるだろう。</p>
委員	<p>生活支援に関する課題として、民生委員になる人が減っていること</p>

	<p>が挙げられる。そもそも誰が民生委員を務めているのか等、民選委員に関する情報はあまり認知されておらず、今後は情報をオープンに伝えていく必要があるだろう。基本的には、地域で経験を積まれた方が民生委員になることが多いが、20～30代に対しては、同世代の民生委員がいないと、情報を届けることが難しいと考えられる。若者版の民生委員というような位置づけの役割ができると望ましい。</p> <p>住まいにおいては、空き家等を活用し、アフォーダブルハウスを増やす取組も必要だろう。</p> <p>相談・支援について、相談を受けたものの、その後支援につないで個別で伴走支援するまでの体制が十分に整っていないことが課題となっている。相談後の伴走支援にも焦点を当て、職員の給与体系や予算を見直す必要があるだろう。「重層的支援」がキーワードになるかと考える。</p> <p>福祉は複雑で、介護事業の制度は事業者もわからないほど難しいという話もあった。AI等の技術も活用しつつ、わかりやすいデザインの工夫ができると望ましい。</p> <p>平成19年に策定した現行の基本構想からアップデートすべきポイントとして、障害者差別解消法ができたことは抑える必要があるだろう。障害があるのは人ではなく社会の方だ、というモデルに世の中が変革している流れを受け、法改正に至った。その部分についての価値観は、アップデートする必要があるだろう</p>
委員	<p>「尊重」というキーワードが重要と考える。障害があっても、生活支援を受けていても、「誰もが尊重されるまち」という構想を持っていただきたい。行政には基本構想に基づいた施策を実行してもらい、私を含め、多くの人と接する機会が多い立場の人は、「誰もが尊重されるまち」というマインドをもった立ち振る舞いを心がけたい。</p>
委員	<p>先月、徳島で児童発達支援の放課後デイサービスに外部講師として訪問し、心の授業をした。出会っていないから理解できないのだろう、という考えにもとづき、訪問先のデイサービスでは意図的に外部の人と関わる機会を設けていた。見ることで知ることができる。障害の有無に関係なく視線を合わせて生活していくことができるよう、区としても、デイサービス等の施設に多様な区民が入れるような仕組みをつくるのが重要なのではないか。</p>
委員	<p>社会モデルや統合モデルが広がることにより、「障害をもつ」ではなく「障害がある」という表現に変わるのではないか。障害は、見方を変えたと人の出会いとして捉えられる。現在着用している服も、知</p>

<p>委員長 委員長</p>	<p>的障害者が書いた絵を商品化している HERALBONY というブランドのものである。荒川区においてもこのような捉え方ができれば、障害があるからお金を使ってサポートやケアを提供しなければというのではなく、事業化の手伝うことで収益化し、経済的に自立できることもあると考える。できない範囲のことは上手に依存しあいながら、できることを増やしていくと、真の自立につながるのではないか。</p> <p>発達障害に関しては、早期のうちに福祉から歩み寄ることで、子育てに困ることにならないような取組ができると望ましい。専門家でない保護者に任せるのではなく、こちらから歩み寄る仕組みができると望ましいだろう。</p> <p>意見を集約し、整理することとする。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(4)「人権・平和・多様性・つながり」について、事務局から説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『人権・平和・多様性・つながり』」について説明する。</p> <p>本シートは現行施策である「人権・平和の普及啓発」「地域コミュニティの活性化」「地域活動の支援と人材育成」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「人権が守られていると思う人の割合」や「男女の地位の平等意識」「町会加入率」等、現行の基本計画期間の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、地域紛争の激化等により、世界的に平和希求が高まっている。男女共同参画の推進においては、家事育児は女性の仕事といった無意識な思い込み（アンコンシャスバイアス）や性別役割意識が依然として根強い障壁となっている。また、少子高齢化・高齢化社会の進展に伴い、地域コミュニティの希薄化が加速することが懸念されている。国や都の主な動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和6年度の区政世論調査の「男女の地位の平等意識」について、学校分野では「平等」との回答が61.6%である一方、社会全体では17.2%、家庭では34.9%と低く、男性優遇と認識する割合が高い状況にある。また、町会が抱える課題について調査したところ、ほぼすべての町会が「高齢化・若手不足」「新規加入者が増えない」「人材・後継者不足」を挙げている状況である。令和8年1月の現在の区内の在留外国人は25,576人と増加している。</p> <p>1～3を踏まえた課題は3つ記載している。平和に関する意識醸成</p>

	<p>とその次世代への継承、家事育児は女性といった無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）や性別役割意識が根強くあること、そしてジェンダー平等意識や人権尊重意識の醸成が必要であること、また、地域コミュニティの維持・活性化等を課題として記載している。</p> <p>基本構想策定支援シート「人権・平和・多様性・つながり」の説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>本分野に関してご意見をいただきたい。</p> <p>「自分らしさ」がキーワードになるだろう。現代では、「自分らしさ」が「自分中心」のように捉えられているようにも感じられ、例えば世界情勢においては「アメリカファースト」という言葉が使われている。子どもたちが戦争等の過去の歴史を学ぶ中で、間接的にも直接的にも偏見が生まれやすくなっているように考える。</p> <p>まちづくりというと最先端の技術の活用というようなイメージがあるが、荒川区の雰囲気とはやや異なるようにも感じられる。荒川区においては、現在のつながりをよりよくすることで、区民が幸せを感じられるまちになると考えられ、それに資する教育ができると望ましい。</p> <p>自分らしさを単に「個性」として捉えると、中心が自分になるため、個別最適にはなるものの、全体最適とは離れる可能性がある。目指すべき荒川区の将来像を社会全体の視点で捉え、その実現に向けて、子どもたちは一人ひとり自分のできることを考え、大人たちはそれを支援するというような方向性で取組を進めていくことが望ましい。</p>
<p>委員</p>	<p>人権・つながりについて、取組の方向性を六点述べる。</p> <p>一点目に、子どもの権利について、荒川区でも令和5年4月より子ども権利条例が施行されており、今後力をいれて取り組むべき分野と考える。</p> <p>二点目に、オンブズマン制度について、区民が人権を侵害されたことを伝えられる場づくりが必要と考える。</p> <p>三点目に、夜間中学は、多文化共生という面でも特色のある学びの場所になっていること実感したため、荒川区らしさの一つとして、今後も取組を続けられると望ましい。</p> <p>四点目に、町会の人材不足が課題となっている中、町会についての情報発信を強化する必要があると考える。一若者視点では、どのように町会に入れるのか、どこにあるものなのか、何をやる機関なのかかわからない。また、既存の町会への参加の促進はもちろん、新町会の設立の認定も促進できると望ましい。</p>

委員	<p>五点目に、地域起こし協力隊の荒川区版ができると望ましいと考える。現在は人のつながりの中心となっている人物のボランティア精神に依存しているが、正式にお金をお支払いし、活動できるような枠組みができると良いだろう。</p> <p>六点目に、若者を巻き込み、つながりを広げるため、施設利用の促進に向けたシステム整備が重要と考える。集会等を開く際、会場の確保が問題となることも多い。大規模施設の予約は複雑で、団体登録等が必要になる。アプリ一つで気軽に会場を予約できるシステムができると、若者も積極的に参加しやすくなるだろう。</p> <p>多文化共生のまちづくりに向けた宣言を出すことも一案か。現在荒川区には、100か国ほどの国籍の方が在住しており、外国人比率は23区中3位である。外国人比率の高さを、「多様な文化に触れあえるまち」としてポジティブに捉え、イベント等でそのようなイメージを確立できると望ましい。すでにいくつかのイベント等が開催されているが、多様な文化を体験でき、直接触れ合える機会をより前面に押し出し、まちづくりにもつなげられると望ましい。</p>
委員	<p>自分自身が初めて女性であることに違和感を覚えたのは、祭りの山車に乗った際に、女性が乗ってはいけないという理由で叩き落されたときであった。伝統的な文化が根付いているところは、従来のしきたりが疑問視されづらく、アンコンシャスバイアスが残りやすい。現在の荒川区の伝統行事等において、どの程度バイアスが残っているのかは定かでないが、すぐにバイアスをなくすことは難しいと考える。アンコンシャスバイアスの存在を知ること、調整できると望ましい。</p> <p>現在、大学の副学長としてダイバーシティに関する役割を担っている。最近幹部からの意見も出始め、全体でダイバーシティ実現に向けて取り組む体制となっているが、女性ばかりが女性の問題について発言したり提案したりしていることに疑念を感じることも多かった。</p>
委員	<p>知らぬうちにもっているアンコンシャスバイアスを洗い出し、荒川区の現状をみんなで見つめ直す機会があると望ましい。</p> <p>男女は生き物として異なる点もあり、すべてを男女平等にすれば良いとは限らないのではないかと考える。全世界、男女隔てなくなっても一緒にするとすると、不都合が生じるため、やはり一定の線引きは必要だろう。</p>
委員	<p>男女の問題のみでなく、伝統に対して、クリティカルシンキングを持つことが重要と考える。正解のない問題に対しても、納得解を持つ</p>

	<p>ことを目指すと良いのではないか。</p> <p>荒川第一中学校エリアでは祭りが盛んである。関係者へ従来は正装で訪問して挨拶をしていたが、今年からランニングチームで走りながら回ることにした。旧会長は伝統として失礼でないかと懸念していたが、あらかじめ伝統への礼をもって、今年の方針を伝えた上で実施したことで、快く受け入れていただけた。礼をわきまえなければ排除されていた可能性もあるだろう。伝統に対して礼を持つことは人間ならではのつながりの一つとも考えられる。</p> <p>人権問題の解消にあたっては、法ではなく、人同士の理解が重要だろう。歌手のAI氏が、人種差別を受けた際、「ただ知らないだけ」「ただ日本人をみたことがないだけ」と発言され、一年後には馴染んでいったというエピソードからも、知り合うことの重要性を感じた</p> <p>男性専用の山車があること自体は良いが、子どもを叩き落とすということはなくすべきだろう。</p> <p>委員がお話されていた、女性が女性の権利を主張することの難しさについて、私はあしなが育英会の募金活動に協力しているが、自身は学生時代に困窮していたわけではなく、むしろ恵まれた環境にあった。募金協力者の多くは、自分も苦学生であったケースが多いが、困窮している人たちだけでやればいいたろう、という機運が出来上がることは避けたい。男性も女性の権利についての検討に参加する必要があるだろう。</p> <p>先生のお話されていた多文化共生のまちづくりに向けた宣言について、荒川区では日暮里繊維街が魅力の一つと考える。この魅力を生かしつつ、多文化共生にもつながるよう、多様な国の衣の文化に触れられる取組ができると望ましい。</p>
委員	<p>女性の人権問題がある一方、男性においても、DVの被害率は世界1位であるにも関わらず、相談窓口やシェルターが少なく、予算は女性の100分の1以下しか確保されていないというデータもある。男性の自殺率も高い割合で推移しているものの、あまりケアされていない。性別に関わらず、被害を受けたことに対して十分にケアする体制を整える必要がある。</p> <p>キーワードとしては「安心感」を挙げる。荒川区にいれば守られる・補償されると感じてもらえるような環境をつくるのが望ましい。</p> <p>川口の隣接市における市民アンケートにて「治安の悪化」が毎年10%ずつ増加しており、議員への苦情も殺到している。従来から居住している外国人は、「我々はこれまでルールを守って生活してきたに</p>

<p>委員長</p>	<p>も関わらず、ルールを守らない外国人の流入により、外国人全体が悪者扱いされる」ということを主張している。荒川区においても、犯罪件数等も明らかに増えており、外国人全体が悪者扱いされるということがある中で、教育を含めた被害者のケアや加害者の更生等、守るための仕組みができると望ましい。</p> <p>本分野は、委員の皆様のバックグラウンドもさまざまに難しい分野であるが、こちらで一度取りまとめたい。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(5)「行財政運営・DX」について、事務局から説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『行政運営・DX』」について説明する。</p> <p>本シートは現行施策の「戦略的な行政運営」や「健全な財政運営」「職員育成の充実」「DX等による窓口サービスの充実」等について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「区政に関心がある区民の割合」「キャッシュレス化率」等、現行の基本計画期間の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、人口減少や少子高齢化による歳入の減少等により全国の自治体の財政を圧迫しており、消滅可能性都市という言葉が生まれた。また根拠に基づく政策立案(EBPM)の推進により、実行性・柔軟性の高い行政運営が求められている。DXに関しては、AI等の技術進展に伴い、自治体DXの動きが活性化し、全国的に行政手続きのオンライン化等による区民サービスの質の向上や職員業務の負担の軽減などが進んでいる状況である。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和7年6月時点の行政手続きのオンライン化率は7%程度となっている。世論調査における「行政手続きのオンライン化により期待すること」の設問に対し「夜間・休日を問わずに窓口に行かずに手続きができること」が最も多く、57.9%であった。外国人来庁者への対応として、タブレット端末の通訳アプリ等の活用によりスムーズに案内ができている状況である。</p> <p>1～3を踏まえた課題は5つ記載している。多様化、複雑化する社会において行政経営の高度化や効率化を一層図ること、人口減少、少子高齢化等に伴う、職員の人材確保や人材育成、また、公共施設の老朽化への対応、行政サービスの効率化・質の向上に向けたより一層のデジタル技術の活用などが課題となっている。</p> <p>基本構想策定支援シート「行政運営・DX」の説明は以上である。</p>

<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>資料 18 ページに記載されている 4 つの論点について、目指す姿と目指す姿の実現に向けた手段を整理した。</p> <p>「戦略的な行政運営」という論点については、基本構想のような区 の目指す姿と現状どのような状態にあるのかが、区民に分かりやすく 示されている状態を目指すべき姿と考える。その実現に向けた手段 は、PDCA 等の評価制度を設け、目標管理をきちんとすることと認識し ている。</p> <p>「健全な財政運営」という論点については、当然健全な財政状況が 保たれている状態が目指す姿になろう。</p> <p>「人材の活用と職員育成の充実」という論点については、職員皆が やりがいをもって働いている状態を目指すべきだろう。課題にも挙げ られているが、人口が減少するため、より少ない人員で運営できる状 態になっている必要がある。そのための手段が DX で、DX 自体が目指 すべき姿という位置づけではないと捉えている。</p> <p>すると、最後の「DX による業務の効率化と窓口サービスの充実」と いう論点における、「DX」はあくまで手段であり、「業務の効率化」は 2 つ目や 3 つ目の論点であるお金・人の省力化に関わる話であるた め、目指す姿は「サービスの充実」、つまり区民から見たときの区のサ ービスが向上しているという状態と考えた。区の視点では、より少な い人員で運営でき、区民視点では、サービスの質は向上しているとい う状態を目指し、その手段が DX という整理になる。</p> <p>現在、ワークシートにて望ましい姿とそのための取組をまとめている が、望ましい姿に取り組みが、取組に望ましい姿が入っている箇所 がある。のちほど整理される際には、その検討自体が EBPM の第一歩に なるだろう。「望ましい姿」の主語は区民になり(区内の高齢者が な状態になっている、区内の小学生が できる / 等) 取組の方向性 は主語を荒川区とし(区が する、その結果区民が × × になる / 等) よう整理できると望ましい。</p>
<p>委員</p>	<p>私も、DX は手段と認識している。世論調査では、行政含むデジタル 化への期待として、「窓口行かずに手続きができるようになること」と いう意見が挙げられ、区民側の意識として、行政は単に手続きをする ためにある組織と捉えられている可能性がある。我々のような審議会 委員等は、優先的に区民と行政の在り方を伝えていく必要がある。そ の中で DX を推進することは重要であるが、それ自体はあくまで手段 であろう。</p>

委員	<p>基本構想審議会にてあるべき荒川区像を考える中で、DXについても検討すること自体は問題ないと思うが、優先順位としてはあるべき姿が決まったあとに取り組むことになるだろう。</p> <p>本会に限らず、多様な人材が日々の業務から行政に関わっている。基本構想等の文言を決める際、研究者等の専門家の意見を参考に整理されることもあるため、人材の登用という面では、民間人材だけでなく研究者の知見が必要だろう。わかりやすく伝えるためにはデザイナーも重要な人材である。加えて、日々の行政運営に関わりたい子どもや若者がいれば、関わられるような行政であることが望ましい。具体的には、本会のような多様な人が議論し合う機会を、15年に一回ではなく日常的にできるよう、そのような業務を専門とする部門が設けられると良いだろう。</p> <p>公共施設の老朽化という課題についても、公共施設はみんなで使う場所であるため、基本構想のような議論プロセスを取り込むことが重要と考える。</p> <p>キーワードとしては、荒川区をおすすめしたい度合いとして、「住民体験価値」や「居住体験価値」をいかに向上できるかを検討できると良いと考える。</p> <p>研究者の巻き込みとも通じることとして、支援シートでも実績として数字がたくさん記載されているが、数字を追いかけて本質を見失うことのないよう留意する必要がある。検討に値する妥当な指標とするためには、設定段階から多様な意見を取り込むことが望ましい。</p>
委員	<p>目指す姿として、区職員の働く満足度の高い区であることが重要と考える。荒川区の場合は、「人材」ではなく「人財」として、今後さらに区民からの感謝の声が職員へ届くよう、窓口やシステムについて公に広く伝えることが必要だろう。</p> <p>働き方改革については、業務を減らすことと捉えられがちであるが、選択の自由があることが重要と考える。頑張りたい時期にはたくさん働き、プライベートと両立させたい時期には業務量を調節できるというような選択肢があると、荒川区職員が長く幸せに働けるのではないかと。責任感の強い職員が多く、一生懸命に、間違いのないよう働かれている印象があるが、少しゆとりをもって笑顔で区民と関わると望ましい。</p>
委員	<p>職員と市民のコミュニケーションやつながりを作るため、カウンターを挟むのではなく、丸テーブルにし、区民と交流する場ともなっている。場所の工夫一つで、コミュニケーションも大きく変わる。行政</p>

<p>委員長</p>	<p>には課題がある中で、区と区民が近い距離で関われる仕組みがあると望ましい</p> <p>DX は一言で、「冗長性」、「レジリエンス」と表現できる。行政は住民にとっての最後の砦である。コロナ発生時や選挙、給付金業務、発災時等、人手は変わらない中、対応すべき業務が一気に増大する時期がある。国の出す要綱・様式も毎年変わり、現場には大変苦労があるものと推察する。当初、DX は業務を効率化し、浮いた時間を対人サービスに充てることで、区のサービスの向上につなげるということを目的としていたが、さまざまな問題が出てきている。</p> <p>DX によって業務は効率化される。ツールを導入すれば、発言者ごとの記録や要約が出来上がるため、手作業での議事録作成を辞める自治体も出ている一方、導入していない自治体では残業して議事録を作成する状況が続いている。いずれの自治体も、何百個もの DX サービス（ロゴチャット、キントーン／等）を活用しているが、軒並み使用料が上がり、効率化のために財政を圧迫する可能性も出ている。滋賀県では、職員を減らし、データサイエンス職を設けた。荒川区の DX 推進においても、外部サービスの値上げが確実な中、内部にて専門性を有する職員を雇うことも一案だろう。</p> <p>また、1歳6か月健診、5歳児健診、予防検診等をつい忘れてしまうことがあるため、一部ではアプリから、時期になると通知がくるようになっている。人は忘れるし、怠惰であるため、災害時や通知も含め、荒川区の情報発信をアプリで一括化できると望ましい。</p> <p>今後窓口の開設時間を短くしなければ成り立たなくなることも考えられる。対人の対応時間を短縮し、職員負担を減らしつつ、住民はアプリ等から 24 時間申請でき、通知がくるといったシステムを構築できると望ましい。</p> <p>災害発生時には、役所に電話をするのではなく、個人に避難先や経路、持ち出すべきものを示し、災害時役所に電話が一切かからないようなシステムをつくることも必要だろう。</p> <p>職員がパンク寸前の状況であるときに限って災害がくるケースも散見される。「未来ある AI のまち荒川」のように、AI 等を活用して、住民の満足度を向上できると望ましい。</p>
<p>委員</p>	<p>区民視点では、行政はサービスを提供する側で、住民はサービスを受けるといって一方通行の関係と捉えられているが、区民が区の職員を応援する立場であるべきなのではないかと考える。</p> <p>行政依存状態ではまちとしてリスクに強い状態とはいえず、相手の</p>

<p>委員長</p>	<p>欠点は自分の出番、自分の欠点は相手の出番という考えを持ち、区民側も区職員を支援するような、相互支援の状態を実現できると望ましい。このような突出した目標を掲げると、注目度も高まり、区民も行動を起こす動機にもつながるのではないかと考える。貢献できることは喜びにもつながる。区職員と区民が互いに感謝しあえるまちなることが望ましい。</p> <p>ここまでの意見について、目的・手段を整理した上で、とりまとめる。</p> <p>以上で政策分野別の検討を終了する。今後のスケジュールについては、事務局より資料4をご説明いただきたい</p>
<p>区</p>	<p>資料4「審議会開催スケジュール」について説明する。</p> <p>第2回審議会で説明した内容から、一番右の「議題」の部分を少し詳しく記載している。次回も引き続き小委員会で本日と同様、政策分野の2040年の望ましい姿についてキーワードをいただく。次回の小委員会は4月10日(金)である。</p> <p>5月25日(月)に第3回審議会を開催し、小委員会での審議結果の報告と基本構想の草案についてご検討いただく予定である。</p> <p>6月29日(月)の第4回審議会では、第3回審議会での議論を踏まえ、基本構想の答申案を検討し、決定する。</p> <p>最終回の7月29日(月)の第5回基本構想審議会では、審議会会長より区長に対して答申をいただく予定である。</p>
<p>委員長 委員長</p>	<p>資料4について質問・意見をいただきたい。</p> <p>質問がないため、資料4の通りに進める。最後に事務局より事務連絡をお伝えいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>追加のご意見は、資料3の追加意見シートを事務局にメールでご提出いただきたい。様式は本会終了後、事務局より送付する。次回小委員会では、4月10日(金)18時30分より、荒川区役所5階大会議室にて、「子育て」「教育」「若者」「生涯学習・スポーツ」の4分野について議論いただく。</p>
<p>委員長</p>	<p>区民参画結果等の参考資料は、次回小委員会の際改めて配布する。</p> <p>[閉会]</p>